

Ensemble 14 第23回演奏会

2015年2月8日 (日) 14:00開演 於：紀尾井ホール



J. S. バッハ カンタータ
BWV 74, 43, 33, 71

管弦楽
Millennium Bach Ensemble

合唱・独唱
Ensemble 14

指揮
辻 秀幸

ごあいさつ

バッハは1685年に生まれ、1750年に没していますので末尾がゼロ・もしくは5の年が記念の年となります。つまり今年が生誕330年（没後265年）の記念の年です。そこで今回はバッハの教会カンタータ33番を中心にしてプログラムを組みました（嘘ですっ）！ 43番・71番・74番と共に今回も4曲の教会カンタータをお楽しみください。

この演奏団体の主目的は文字通りアンサンブルです。無論その中心は合唱曲、コラールになる訳ですが、オーディションで選ばれたソリストたちはバッハ演奏にかけては日本でも稀有なプロ集団とのアンサンブルを体験することが出来ます。オーディションを受けるという事を通してメンバーはこのカンタータの合唱部分に留まらずにその全体像を把握することになります。ソロ曲の多さからどうしてもアマチュア合唱団では取り上げにくいバッハの教会カンタータですが、我々はこのシステムを採用することでそれを可能にしているのです。オーディションには毎回違う器楽・声楽のスペシャリストに審査員としてお越し頂いています。審査員によりソリストに対する価値観が違う為、基本的

に多くのメンバーがソリスト体験をできる事も魅力です！

幸か不幸かこのグループは今のところ定員に欠員が無いのですが、どうか我々の活動を末永く、興味深くお見守り頂ければと存じます。

それでは開演です！



Ensemble 14 指揮者
辻 秀幸



本日は、Ensemble14（アンサンブル・フィアツェン）の演奏会に足をお運びいただき、誠にありがとうございます。団員一同、心より御礼申し上げます。

Ensemble14は、1998年8月に、バッハの『マタイ受難曲』の第2コーラスを歌おうとの呼びかけに応じて誕生した合唱団です。以来教会カンタータを中心に、一貫してバッハの声楽作品を歌い続けてきました。

今回のプログラムは、カンタータの中でも器楽編成がかなり大きく華やかな曲が中心です。このような演目を、紀尾井ホールという会場で演奏できますことには、やはり少し大きめの高揚感を覚えます。当団の初期の演奏会では、十数名のメンバーが小さなホールに1列に並んで演奏したことを思えば、隔世の感があり、遠い目にならざるを得ません。

ですが、人数や会場が変わろうとも、辻先生のご指導のもと、難しいバッハの曲に真摯に取り組み、練習を大事にして楽しみつつ、できるだけ良い音楽にしようと思う気持ち

ちはずっと変わらず持ち続けてきたつもりです。そして今後もその気持ちを忘れずに、活動していきたいと思っております。

本日は、合唱・独唱曲とも、団員が演奏いたします。練習の成果を発揮すべく、精一杯演奏させていただきますので、終演までごゆっくりお聴き頂ければ幸いです。

最後になりましたが、笑いに溢れた練習のうちに、真摯で生き生きとした音楽作りへと導いてくださいます指揮者の辻秀幸先生、バッハ演奏のスペシャリスト揃いで、素晴らしい音楽で合唱を支えてくださるミレニウム・バッハ・アンサンブルの皆様、練習で献身的にサポートして下さる練習ピアニストの田城章子先生、そして今回のソリストオーディションで審査員を務めてくださいましたチェロ奏者の西澤央子先生に、深く感謝申し上げます。

Ensemble14 代表
室橋 明美

Programm

作曲 ヨハン・ゼバスティアン・バッハ

Johann Sebastian Bach (1685-1750)

カンタータ 第74番 「私を愛する人は、私の言葉を守るだろう」

Kantate "Wer mich liebet, der wird mein Wort halten", BWV 74

(2) 室橋 明美 Sopran (3) Jesse Astalos Alt (4) 下平 泰裕 Baß

(5) 室橋 義明 Tenor (6) 木下 剛 Baß (7) 小林 良子 Alt

カンタータ 第43番 「神は歓呼の声と共に天に昇られ」

Kantate "Gott fährt auf mit Jauchzen", BWV 43

(2) 長澤 哲 Tenor (3) 室橋 義明 Tenor (4) 河野 優子 Sopran (5) 子井野 真貴子 Sopran

(6) 武内 崇史 Baß (7) 大内 良太郎 Baß (8) 湊 佳代 Alt (9) 小田 奈穂子 Alt (10) 菅野 綾子 Sopran

～ Pause / 休憩 ～

カンタータ 第33番 「ただあなただけに、主イエス・キリストよ」

Kantate "Allein zu dir, Herr Jesu Christ", BWV 33

(2) 菅野 松佐登 Baß (3) 橋元 正美 Alt (4) 中西 隆紀 Tenor (5) 長澤 哲 Tenor, 木下 剛 Baß

カンタータ 第71番 「神は私の王」

Kantate "Gott ist mein König", BWV 71

(2) 湊 佳代 Sopran, 中西 隆紀 Tenor (4) 武内 崇史 Baß (5) 寺崎 淳子 Alt

BWV: Bach-Werke-Verzeichnis (バッハ作品総目録番号)



指揮 辻 秀幸

管弦楽 Millennium Bach Ensemble

声楽 Ensemble14

楽曲解説・歌詞対訳

楽曲解説：中西 隆紀 歌詞対訳：室橋 明美

カンタータ第74番「私を愛する人は、私の言葉を守るだろう」

Kantate "Wer mich liebet, der wird mein Wort halten" BWV 74

聖霊降臨祭第1日目のためのカンタータ

歌詞：Christiane Mariane von Ziegler 作

今回の演奏会で演奏する4つのカンタータはいずれ劣らぬ名曲であり、またそれぞれが個性的でバラエティーに富んでいる。その個性を漢字1字で表すとしたら、この74番は「華」もしくは「晴」といったところだろうか。

このカンタータは、1725年5月20日聖霊降臨祭の日にライプツィヒで初演されたが、元々は1年前の聖霊降臨祭用に書かれたカンタータ59番を発展的に改作したもので、59番の第1曲を冒頭合唱に、同じく第4曲を第2曲に転用し、第3曲以降を新たに作曲した。歌詞はライプツィヒの女流詩人マリアーネ・フォン・ツィーグラウの台本によっている。この台本では、聖霊降臨祭に朗読される聖書の言葉を第1曲、第4曲、第6曲で用い、自由詩で書かれたその他の曲でそれらを解説し、終曲をパウル・ゲールハルトの聖霊降臨祭コラールで締めくくる形となっている。

冒頭の合唱曲は、演奏会の最初を飾るのにふさわしく、晴れやかで祝祭感にあふれている。この曲は、カンタータ59番の室内楽風の二重唱アリア（ソプラノ、バス）を四声の多声合唱に作り直したもので、落ち着いた雰囲気の中に喜びが満ち、華やかで色彩に富む合唱となっている。

オーボエの優しいメロディーに導かれるソプラノのアリアは、まるで踊っているかのように優雅に歌われる。短いアル

トのレチタティーヴォに続くバスのアリアは少し憂鬱なムードで始まるが、後半の歌詞 freuen（喜ぶ）では長いメリスマで喜びを表現する。通奏低音の奏でるメロディーが中々渋い。

続くテノールのアリアは長大な力作である。憂鬱なムードを吹き飛ばすような、始まりの弦の和音にまずハッとさせられる。やがて、テノールが「kommt（来なさい）」と高い声で二回繰り返して歌い出す。自由なダ・カーポ形式で書かれているが、曲全体に何とも言えない気品が溢れ、流れるような親しみやすいメロディーの中に高度な歌唱技術を要求する。バッハのテノール・アリアの傑作のひとつであり、とにかく格好いいアリアだと思う。

バスの短いレチタティーヴォに導かれて、ソロ曲のトリはアルトのアリアである。勢いのあるソロヴァイオリンの分散和音は聴く者をワクワクさせ、アルトの勇ましい歌唱へと繋げていく。地獄の鎖（Ketten）という歌詞に付けられた激しいメリスマが聴かせどころだ。そして、最後にまるで興奮を鎮めるかのように、比較的単純な4声コラールが置かれ、穏やかに祝祭カンタータを歌い終える。

1. Chor

Wer mich liebet, der wird mein Wort halten,
und mein Vater wird ihn lieben,
und wir werden zu ihm kommen
und Wohnung bei ihm machen.

2. Arie (Sopran)

Komm, komm, mein Herze steht dir offen,
ach, laß es deine Wohnung sein!
Ich liebe dich, so muß ich hoffen:
dein Wort trifft itzo bei mir ein;
denn wer dich sucht, fürcht, liebt und ehret,
dem ist der Vater zugetan.
Ich zweifle nicht, ich bin erhöret,
daß ich mich dein getrösten kann.

1. 合唱

私を愛する人は、私の言葉を守るだろう。
そして私の父はその人を愛するだろう。
私たちはその人のところに来て、
その人のもとを住まいとするだろう。

（『ヨハネによる福音書』14章23節）

2. アリア（ソプラノ）

来てください、来てください、私の心はあなたへと開いています。
ああ、この心を、あなたの住まいとなさってください！
私はあなたを愛しています。そして、待ち望まずにはいられません。
あなたの御言葉が、今こそ私のもとに届くことを。
あなたを求め、畏れ、愛し、敬う者を
父たる方は、愛してくださるのですから。
私は疑いません、私の願いは聞き入れられ、
あなたの慰めにあずかれるのだと。

3. Rezitativ (Alt)
Die Wohnung ist bereit.
Du findest ein Herz, das dir allein ergeben,
drum laß mich nicht erleben,
daß du gedenkst von mir zu gehn.
Das laß ich nimmermehr, ach, nimmermehr geschehen!
3. レチタティーヴォ (アルト)
住まいはととのえられました。
あなたが見出す心は、ただあなただけに捧げられたもの、
ですから、私に経験させないでください、
あなたが私から去ろうとお考えになることなど。
そんなことを、私は決して、ああ決して起こさせはしません!
4. Arie (Baß)
Ich gehe hin und komme wieder zu euch.
Hättet ihr mich lieb, so würdet ihr euch freuen.
4. アリア (バス)
私は行き、そして再びあなたたちのもとに来る。
あなたたちが私を愛すれば、あなたたちは喜ぶことになるだろう。
(『ヨハネによる福音書』14章28節)
5. Arie (Tenor)
Kommt, eilet, stimmet Sait und Lieder
in muntern und erfreuten Ton.
Geht er gleich weg, so kömmt er wieder,
der hochgelobte Gottessohn.
Der Satan wird indes versuchen,
den Deinigen gar sehr zu fluchen.
Er ist mir hinderlich,
so glaub ich, Herr, an dich.
5. アリア (テノール)
来なさい、急いで、弦と歌との調べを合わせ、
快活に、喜ばしく響かせなさい。
彼は去ろうとも、再び来てくださるのです、
大いに賞賛される神の子は。
しかしながら、サタンは試みるでしょう、
あなたの者たちを、ことごとく呪ってしまおうと。
サタンは私の妨げとなるもの、
ならば私は、主よ、あなたを信じます。
6. Rezitativ (Baß)
Es ist nichts Verdammliches an denen,
die in Christo Jesu sind.
6. レチタティーヴォ (バス)
何ひとつ罪に定められることはありません
イエス・キリストのうちにいる人々は。
(『ローマの信徒への手紙』8章1節)
7. Arie (Alt)
Nichts kann mich erretten
von höllischen Ketten
als, Jesu, dein Blut.
Dein Leiden, dein Sterben
macht mich ja zum Erben:
Ich lache der Wut.
7. アリア (アルト)
何も私を救い出すことはできません、
地獄の鎖からは
イエスよ、あなたの血の他には。
あなたの苦悩、あなたの死が
私を継承者と定められたのです。
私は荒れ狂う地獄をも、笑い飛ばしましょう。
8. Choral
Kein Menschenkind hier auf der Erd
Ist dieser edlen Gabe wert,
Bei uns ist kein Verdienen;
Hier gilt gar nichts als Lieb und Gnad,
Die Christus uns verdienet hat
Mit Büßen und Versöhnen.
8. コラール
いかなる人の子も、この地上において
この貴重な贈り物に値せず、
私たちの中に、誰ひとり受け取るにふさわしい人はいません。
ここでは、愛と恵みの他に価値あるものは何ひとつなく、
それをキリストは、私たちのために勝ち得てくださったのです。
罪の償いと、贖(あがな)いをもって。
(Paul Gerhardt 作のコラール « Gott Vater, sende deinen Geist »第2節)

※歌詞および対訳中の太字部分は、バッハが作曲した当時、既に教会で一般的に歌われていたコラール(讃美歌)の歌詞と旋律が用いられている箇所です。

カンタータ第 43 番 「神は歓呼の声と共に天に昇られ」

Kantate "Gott fährt auf mit Jauchzen" BWV 43

昇天祭のためのカンタータ

歌詞：Rudolstadt 詩華撰による

このカンタータは 1726 年 5 月 30 日昇天祭の礼拝用に作曲された。今日演奏する 4 曲の中では一番最後に作曲されたことになる。バッハは 1723 年 5 月ライプツィヒのカントールに就任し、最初の 2 年間はほとんど切れ目なしに自作のカンタータを上演してきたが、3 年目になると現存するカンタータの数は少なくなる。特に 1726 年の 2 月から 5 月にかけては、自作ではなく遠戚にあたるヨハン・ルートヴィヒ・バッハの曲を上演していた。この 43 番は、そんな中、昇天祭を迎えて久々に上演された自作のカンタータである。

カンタータ 74 番と同じように祝祭日のカンタータで、トランペットやティンパニー、いわゆる鳴り物入りのカンタータだが、74 番とはだいぶ雰囲気異なっている。漢字一字で表すなら「祝」もしくは「歓」だろうか。

冒頭合唱は、最初はアダージョで厳かに始まるのだが、ほどなくトランペットが入ってくるとプレスト（きわめて速く）となり、弦楽が上向音型でキリストの天へ昇る様を表現する。やがて、ティンパニーとともに合唱が入り、賑やかな祝祭感あふれる音楽となる。「Jauchzen（歓呼の声）」、「Posaunen（ラッパの音）」という言葉が波打つような音型で歌われたり、各パートに印象的な高音域での同音反復が現れ、気持ちの高揚を表現する。これに所々、「fähret auf（天に昇る）」という上向音型（ソ・ド・ミ・上のソ）も加わる。華々しい歓呼の歌声はやがて収束して、「Lobsinget Gott（神を賛美して歌え）」で一つになる。直後の短調になった器楽の間奏も美しい。その後、もう

ひとしきり盛り上がりを見せて祝いの合唱を閉じる。

このあと、テノール、ソプラノ、バス、アルトの順で、それぞれレチタティーヴォ（語り）とアリアのセットが続く。「千の千倍の者たちが・・・」と歌い始めるテノールのアリアは、終始せわしなく、音程の幅が大きく、メリスマもあって歌うのが至難の曲だ。次のソプラノは、短調でしっとりとしたメロディックなアリア。「私のイエスは救い主の御業を果たした。彼を天国に迎え入れてください」と歌う。

ところで、このカンタータは 2 部形式をとっており、この後が第 2 部となる。礼拝ではここで牧師の説教があつて、音楽はいったん休止となるのが通例だが、このカンタータは連続して演奏されたい。したがって、あまり長大にならないように、各アリアはダ・カーポ（繰り返し）にせず、比較的演奏時間の短いものとなっている。

第 2 部では雰囲気が変わって、「勇者の中の勇者が来られます」と力強いバスのレチタティーヴォで始まり、続いてトランペット伴奏の勇ましいバスのアリアが来る。そして、4 つのアリアの最後に、オーボエの哀愁を帯びたメロディーに乗ってアルトのアリアが歌われる。曲の後半、「困窮と苦しみ、恥辱」という言葉に付けられた、臨時記号を多用した不安げなメロディーが印象的である。

その後、さらにもう一曲ソプラノのレチタティーヴォがあつて、終曲コラールとなる。信じる気持ちを表現した落ち着いた感じのコラールは歌詞を替えて 2 回繰り返され、「生命の君イエスが父と敬虔な信徒たちのいる天に迎え入れられた」と歌う。

Erster Teil

1. Chor

Gott fährt auf mit Jauchzen
und der Herr mit heller Posaunen.
Lobsinget, lobsinget Gott,
lobsinget, lobsinget unserm Könige.

2. Rezitativ (Tenor)

Es will der Höchste sich ein Siegsgepräng bereiten,
da die Gefängnisse er selbst gefangen führt.
Wer jauchzt ihm zu?

Wer ist's, der die Posaunen rührt?

Wer gehet ihm zur Seiten?
Ist es nicht Gottes Heer,
das seines Namens Ehr,

第 1 部

1. 合唱

神は歓呼の声と共に天に昇られ、
主は高らかなラッパの音と共に昇られる。
賛美して歌え、神を賛美して歌え、
賛美して歌え、賛美して歌え、我らの王を。

（『詩編』47 編 6-7 節）

2. レチタティーヴォ（テノール）

至高なる方は華麗な勝利への準備をしようと、
自ら捕らえられ、牢獄もろとも引き連れて行ったのです。
神に向かって歓呼の声を上げるのは誰なのか？

誰なのか、ラッパを吹き鳴らすのは？

神のそばについて、共に行くのは誰なのか？
それは神の軍勢ではないのか、
その御名の栄光と、

Heil, Preis, Reich, Kraft und Macht mit lauter Stimme singet
und ihm nun ewiglich ein Halleluja bringet?

救い、賛美、御国、威力と権力を大声で歌い
今、神に永遠にハレルヤを捧げるのは？

3. Arie (Tenor)

Ja tausend mal tausend begleiten den Wagen,
dem König der Kön'ge lobsingend zu sagen,
daß Erde und Himmel sich unter ihm schmiegt
und was er bezwungen, nun gänzlich erliegt.

3. アリア (テノール)

千の千倍の者たちが神の馬車につき従い、
王の中の王に向かって、口々に賛美して歌うのです。
地も天も、その方の下にひざまづき、
その方が打ち負かしたものは、今やすっかり屈服させられたと。

4. Rezitativ (Sopran)

Und der Herr, nachdem er mit ihnen geredet hatte,
ward er aufgehoben gen Himmel
und sitzt zur rechten Hand Gottes.

4. レチタティーヴォ (ソプラノ)

そして主は、彼らに語り終えた後に、
天へと上げられ、
神の右に座られました。

(『マルコによる福音書』16章19節)

5. Arie (Sopran)

Mein Jesus hat nunmehr
das Heilandwerk vollendet
und nimmt die Wiederkehr
zu dem, der ihn gesendet.
Er schließt der Erde Lauf,
ihr Himmel, öffnet euch,
und nehmt ihn wieder auf!

5. アリア (ソプラノ)

私のイエスはいまや
救い主の御業を果たし
帰途におつきになりました
彼を遣わした方のもとへと。
彼は地上での道程を終えたのです
天よ、門を開いて
彼を再び迎え入れてください!



Weimar 時代のものとされている肖像画

Zweiter Teil

6. Rezitativ (Baß)

Es kommt der Helden Held,
des Satans Fürst und Schrecken,
der selbst den Tod gefällt,
getilgt der Sünden Flecken,
zerstreut der Feinde Hauf;
ihr Kräfte, eilt herbei
und holt den Sieger auf.

7. Arie (Baß)

Er ist's, der ganz allein
die Kelter hat getreten
voll Schmerzen, Qual und Pein,
Verlorne zu erretten
durch einen teuren Kauf.
Ihr Thronen, mühet euch
und setzt ihm Kränze auf!

8. Rezitativ (Alt)

Der Vater hat ihm ja
ein ewig Reich bestimmt:
Nun ist die Stunde nah,
da er die Krone nimmt
vor tausend Ungemach.
Ich stehe hier am Weg
und schau ihm freudig nach.

9. Arie (Alt)

Ich sehe schon im Geist,
wie er zu Gottes Rechten
auf seine Feinde schmeißt,
zu helfen seinen Knechten
aus Jammer, Not und Schmach.
Ich stehe hier am Weg
und schau ihm sehnsüchtig nach.

10. Rezitativ (Sopran)

Er will mir neben sich
die Wohnung zubereiten,
damit ich ewiglich
ihm stehe an der Seiten,
befreit von Weh und Ach!
Ich stehe hier am Weg,
und ruf ihm dankbar nach.

第 2 部

6. レチタティーヴォ (バス)

勇者の中の勇者が来られます。
サタンを支配し、恐怖せしめた方は
自ら死を打ち倒し、
罪の穢（けが）れを消し去り、
敵の群れを追い散らしたのです。
力をもつ者たちよ、急ぎ来て、
この勝利者を戴きなさい。

7. アリア (バス)

彼こそは、全くひとりきりで
ぶどうを樽の中で踏み続けたのです。
痛み、苦しみ、悩みに満ちた中を、
墮落した者たちの救いとなるために
大きな代償を払って。
諸々の玉座よ、自ら努めて
彼に勝利の栄冠を戴かせなさい!

8. レチタティーヴォ (アルト)

御父は彼に
永遠の御国をお定めになりました。
今こそ、その時が近づき
彼は数えきれない苦難に代えて
王冠を受けられるのです。
私はこの道に立って
喜んで彼を見送ります。

9. アリア (アルト)

私はすでに霊において見たのです。
彼が神の右に座り、
敵を打ち破って
彼のしもべたちを
困窮と苦しみ、恥辱から救い出されるのを。
私はこの道に立って
彼を慕いつつ、見送ります。

10. レチタティーヴォ (ソプラノ)

彼はご自分のすぐそばに
私の住まいを用意してくださるでしょう。
そして私は永遠に
彼の御許（みもと）にあつて
嘆きと悲しみから解放されるのです!
私はこの道に立って
彼の後ろ姿に感謝の言葉をかけましょう。

11. Choral

Du Lebensfürst, Herr Jesu Christ,
 Der du bist aufgenommen
 Gen Himmel, da dein Vater ist
 Und die Gemein der Frommen,
 Wie soll ich deinen großen Sieg,
 Den du durch einen schweren Krieg
 Erworben hast, recht preisen
 Und dir gnug Ehr erweisen?

Zieh uns dir nach, so laufen wir,
 Gib uns des Glaubens Flügel!
 Hilf, daß wir fliehen weit von hier
 Auf Israelis Hügel!
 Mein Gott! wenn fahr ich doch dahin,
 Woselbst ich ewig fröhlich bin?
 Wenn werd ich vor dir stehen,
 Dein Angesicht zu sehen?

11. コラール

生命の君、主イエス・キリストよ、
 あなたは迎え入れられました
 あなたの父と、
 敬虔な信徒たちのいる天へと。
 私はどのようにして、あなたの大いなる勝利、
 あなたが苦しい戦いを経て
 つかんだ勝利を正しく賞賛し、
 あなたにふさわしい榮譽を示せばよいでしょうか？

私たちの手を引いてください、私たちがあなたの後に続いて走るように
 私たちに信仰の翼を与えてください！
 助けてください、私たちがここから遠く離れ
 イスラエルの丘へと逃れられるように！
 私の神よ！一体いつ、私はこの世を去り、
 永遠の喜びにあずかれるのでしょうか？
 いつ、私はあなたの御前に立ち、
 あなたの御顔を見ることができるようでしょうか？

(Johann Rist 作のコラール « Du Lebensfürst, Herr Jesu Christ »第 1, 13 節)



1746年 61歳時の肖像画

カンタータ第 33 番 「ただあなただけに、主イエス・キリストよ」

Kantate "Allein zu dir, Herr Jesu Christ" BWV 33

三位一体の祝日後第 13 日曜日のためのカンタータ

歌詞：作者不詳 Konrad Hubert 作のコラール

« Allein zu dir, Herr Jesu Christ »による

このカンタータは 1724 年 9 月 3 日、三位一体後第 13 日曜日の礼拝用に作曲された。コラール・カンタータで、冒頭合唱ではソプラノ・パートがコラール旋律を歌う。オブリガート楽器はオーボエ 2 本だけで編成は小さいが、コンパクトで中身が濃い。このカンタータを漢字一字で表すなら「粹」ではないかと思う。

冒頭合唱曲の魅力は掛け合いの素晴らしさだ。器楽の楽器同志の掛け合いもさることながら、合唱と器楽の掛け合いというか煽り合いが見事である。まず出だしから聴く者を惹きつける。静寂を破るようにまずオーボエが飛び出し、そこに弦楽、通奏低音が順に加わっていき、やがてまるでジャズの演奏を聴いているような器楽の競演が始まるのである。特に通奏低音のタリラリラとでもいうような下降音型、オーボエのピ・ピ・ピ・ピという同音の繰り返し、間奏の締めくくりには弦やオーボエに現れるチャカチャカチャカチャカチャ〜という刺激的なメロディーが印象的で、それらが主旋律と絡み合っるととても心地よいモダンな雰囲気を作り出している。最初から最後の音が鳴りやむまで一分の隙もない器楽と声楽の協演。このような音楽が、18 世紀の教会の礼拝で演奏されていたというのが私には信じられない。

2 曲のアリアはどちらも印象的だ。まず、バスのレチタティーヴォに続いて歌われるアルトのダ・カーポアリア。アルトは「私の歩みは不安げによろめいている」と歌う。フラット (b) が多用され、よろめく様子が表現されている。「イエスの慰めの言葉が私を助ける」と歌う中間部では、変わってシャープ (♯) が多く現れる。全体にゆったりとしたテンポの中、弦のピツィカートが幻想的な雰囲気を醸し出す。

テノールのレチタティーヴォに続いて歌われるのは、珍しいテノールとバスの二重唱。と言っても、バッハのカンタータの中にはいくつか見られる組合せで、カンタータ 125 番やカンタータ 146 番にある二重唱は中々の名曲だ (ちなみに二重唱で最も多い組合せはソプラノとアルト)。当カンタータでは、隣人を愛せよという教えを題材に、どこか懐かしいメロディーに乗って男同士の美しいハモリを聴くことが出来る。それに絡む 2 本のオーボエによるオブリガートも美しい。

最後のコラールでは、三位一体、すなわち神、そのひとり子であるイエス、聖霊への賛美を歌って、静かにカンタータを閉じる。

1. Coro

Allein zu dir, Herr Jesu Christ,
Mein Hoffnung steht auf Erden;
Ich weiß, daß du mein Tröster bist,
Kein Trost mag mir sonst werden.
Von Anbeginn ist nichts erkorn,
Auf Erden war kein Mensch geboren,
Der mir aus Nöten helfen kann;
Ich ruf dich an,
Zu dem ich mein Vertrauen hab.

2. Rezitativ (Baß)

Mein Gott und Richter,
willt du mich aus dem Gesetze fragen,
so kann ich nicht,
weil mein Gewissen widerspricht,
auf tausend eines sagen.
An Seelenkräften arm und an der Liebe bloß,
und meine Sünd ist schwer und übergroß;
doch weil sie mich von Herzen reuen,

1. 合唱

ただあなただけに、主イエス・キリストよ、
私の希望はあるのです、この地上においては。
私は知っています、あなたは私の慰め主であり
他には何も私の慰めになりえるものはないと。
世の初めから、何ひとつそれと選ばれたものはなく、
地上には、そんな人間は一人として生まれなかったのです、
私を苦しみから救うことのできる人は。
私はあなたに呼びかけます、
私が信頼を寄せている、あなたに。

(第 1 節)

2. レチタティーヴォ (バス)

私の裁き主である神よ、
あなたが律法によって私を問いただすならば、
私は
良心のとがめゆえに、
千に一つも答えることができません。
魂の力は乏しく、愛を守るものもなく、
私の罪は重く、途方もなく大きいのです。
しかし、それらが私を心から後悔させるので、

wirst du, mein Gott und Hort,
durch ein Vergebungswort
mich wiederum erfreuen.

3. Arie (Alt)

Wie furchtsam wankten meine Schritte,
doch Jesus hört auf meine Bitte
und zeigt mich seinem Vater an.

Mich drückten Sündenlasten nieder,
doch hilft mir Jesu Trostwort wieder,
daß er für mich genug getan.

4. Rezitativ (Tenor)

Mein Gott, verwirf mich nicht,
wiewohl ich dein Gebot noch täglich übertrete,
von deinem Angesicht!
Das kleinste ist mir schon zu halten viel zu schwer;
doch, wenn ich um nichts mehr
als Jesu Beistand bete,
so wird mich kein Gewissensstreit
der Zuversicht berauben;
gib mir nur aus **Barmherzigkeit**
Den wahren Christenglauben!
So stellt er sich mit guten Früchten ein
und wird durch Liebe tätig sein.

5. Arie (Duett: Tenor und Baß)

Gott, der du die Liebe heißt,
ach, entzünde meinen Geist,
laß zu dir vor allen Dingen
meine Liebe kräftig dringen!
Gib, daß ich aus reinem Triebe
als mich selbst den Nächsten liebe;
stören Feinde meine Ruh,
sende du mir Hülfe zu!

6. Choral

Ehr sei Gott in dem höchsten Thron,
Dem Vater aller Güte,
Und Jesu Christ, sein'm liebsten Sohn,
Der uns allzeit behüte,
Und Gott, dem heiligen Geiste,
Der uns sein Hülff allzeit leiste,
Damit wir ihm gefällig sein,
Hier in dieser Zeit
Und folgend in der Ewigkeit.

私の守護者たる神よ、あなたは
赦しの言葉によって
私を再び喜ばせてくださるでしょう。

3. アリア (アルト)

私の歩みは、なんと不安げによろめいていたことでしょう
しかしイエスは私の願いに耳を傾け、
私のことを、彼の父に告げ知らせてくださったのです。
罪の重荷が私を押しつぶします
しかしイエスの慰めの言葉が私を再び助けるのです
私のために十分に行ってくださいということが。

4. レチタティーヴォ (テノール)

私の神よ、あなたの御前から
私を退けないでください!
私が今なお、あなたの掟に日々背いていようとも。
最も小さな掟ですら、私には守るのがひどく難しいのです。
しかし、私がイエスの助けの他に
何一つ請い願うことがなければ、
いかなる良心の争いも
私から確かな期待を奪うことはできないでしょう。
私にあたえてください、どうか**憐れみをもって**
真のキリスト者の信仰を!
そうすれば、信仰は良い実をつけて現れ来て、
愛によって働くことでしょう。

(第3節)

5. アリア (テノールとバスの二重唱)

神よ、愛と呼ばれる方よ、
ああ、私の霊を燃え立たせ、
何をおいてもあなたのもとに
私の愛を力強く突き進ませてください!
願わくば、私に純粋な欲求から
自分自身を愛するように隣人を愛させてください。
敵が私の安らぎを乱すなら、
私に助けを送ってください!

6. コラール

栄光がありますように、至高の玉座にいます神にして、
全ての慈しみの父なる方に、
そしてその最愛の子である、イエス・キリストに、
この方が私たちを常に護(まも)ってくださいますように。
そして、聖霊なる神に、
この方が私たちを常に助けてくださいますように、
私たちが神の御心にかなう者であるために。
ここで、この時にも、
そして、その後続く永遠のうちにも。

(第4節)

カンタータ 71 番 「神は私の王」

Kantate "Gott ist mein König" BWV 71

市参事会交代式のためのカンタータ

歌詞：作者不詳

今回演奏する4曲のカンタータはバラエティーに富んでいるが、中でもこの71番は一風変わっていると感じられるのではなかろうか。それはこのカンタータが他の3曲よりだいぶ以前に書かれているからだ。3曲がライブツィヒ時代の作品なのに対して、71番はバッハがカンタータを初めて書いたミュールハウゼンという小さな町で生まれた。1708年というからバッハはまだ22歳、その年の2月4日に行われた市の参事会員就任式用に作曲されたカンタータだ。面白いことに初期の作品でありながら、このカンタータはバッハの生前に楽譜が出版された唯一のカンタータとなっている。

初期のカンタータで往々に見られるように、このカンタータは各楽曲が比較的短い、レチタティーヴォ（語り）がない、合唱曲が多いという特徴を持っている。最後に演奏するこのカンタータを漢字一字で表すなら「古」もしくは「秘」でどうだろうか。何か古めかしくて神秘的なおいがあるのである。

「神はいにしえより私の王」と高らかに歌う合唱から始まるが、たしかに音色がやや時代掛かった印象を受ける。まあ、この雰囲気がこのカンタータの魅力なのだが。続いてコラール旋律を歌うソプラノとの掛け合いが美しい、テノールのアリアが来る。オルガンの伴奏もとても魅力的だ。「私はもう80歳で、故郷の街で死にたい」と歌う。曲のテーマはいかに生きそして死ぬかだが、これには退任する老参

事へのねざらいが込められているという。

これを受けて四重唱（合唱）が「あなたの老年期が、あなたの青年期のようにでありますように」と歌う。曲想は暗くてなんだか古臭い感じの曲だが、歌の内容は現代に通ずる。そうであれば、どんなに良いかと筆者は身に染みて思う。

続くバスのアリオソはダ・カーポ（繰り返し）になっている。Tag（昼）に高い音を、Nacht（夜）に低い音を当てている出だしのところが面白い。次のアルトのアリアは、レチタティーヴォ（語り）のように始まり、やがてトランペットとティンパニーが鳴り響いて、とても勇ましく歌われる。その激しい余韻が残る中で始まる第6曲の合唱は、一変して物憂げでメランコリックだ。最後のユニゾン（全パートが同じ音を歌う）の部分は、心をひとつにした神への願いが込められているようで印象的だ。

終曲は新参事会の統治の成功とヨーゼフ皇帝の多幸を祈る内容で、明るい曲想で始まり、途中曲想とテンポを変えながら6つの部分から成り立っている。第1曲でもそうだったが、この終曲も最後の終わり方が一風変わっていて、エコーのようなピアノで終わるのだ。ちょっと物足りない感じもするが、余韻を残して終わることなのだろう。

1. Chor

Gott ist mein König von Alters her,
der alle Hülfe tut, so auf Erden geschieht.

2. Arie (Tenor) und Choral (Sopran)

Ich bin nun achtzig Jahr,
warum soll dein Knecht sich mehr beschweren?

**Soll ich auf dieser Welt
Mein Leben höher bringen,
Durch manchen sauren Tritt
Hindurch ins Alter dringen,**

Ich will umkehren, daß ich sterbe in meiner Stadt,

**So gib Geduld, vor Sünd
Und Schanden mich bewahr,
Auf daß ich tragen mag**

bei meines Vaters und meiner Mutter Grab.

Mit Ehren graues Haar.

1. 合唱

神はいにしえよりずっと私の王であり、
地上に起こるすべての救いを行われる方なのです。

（『詩編』74編12節）

2. アリア（テノール）とコラール（ソプラノ）

私は、いまや80歳になります。
なぜ、あなたのしもべは、さらなる重荷に苦しまねばならないのですか？

**私はこの世で
さらに齢を重ね、
多くの辛く、苦しい歩みを通じて
長い歳月を踏み越えていかねばなりません。**

私は引き返し、自分の街で死にたいのです。

**どうか、忍耐を与えてください
罪と恥辱からこの身を守り、
それによって私が**

私の父と母の墓のそばで。

誇りと共に、白髪をまとえるように。

（Johann Heermann 作のコラール « O Gott, du frommer Gott »第6節）

3. Chor

Dein Alter sei wie deine Jugend,
und Gott ist mit dir in allem, das du tust.

4. Arioso (Baß)

Tag und Nacht ist dein.
Du machest, daß beide, Sonn und Gestirn,
ihren gewissen Lauf haben.
Du setzest einem jeglichen Lande seine Grenze.

5. Arie (Alt)

Durch mächtige Kraft
erhältst du unsre Grenzen,
hier muß der Friede glänzen,
wenn Mord und Kriegessturm
sich allerorts erhebt.
Wenn Kron und Zepter bebt,
hast du das Heil geschafft:
durch mächtige Kraft!

6. Chor

Du wollest dem Feinde nicht geben
die Seele deiner Turteltauben.

7. Chor

Das neue Regiment
auf jeglichen Wegen
bekröne mit Segen!
Friede, Ruh und Wohlergehen
müsse stets zur Seite stehen
dem neuen Regiment.

Glück, Heil und großer Sieg
muß täglich von neuem
dich, Josef, erfreuen,
daß an allen Ort und Landen
ganz beständig sei vorhanden:
Glück, Heil und großer Sieg!

3. 合唱

あなたの老年期が、あなたの青年期のようにありますように。
神は、あなたがなす全てのことのうちに、あなたと共におられるのです。

4. アリオソ (バス)

昼と夜はあなたのものです。
あなたは、太陽と星々の双方に
確かな軌道を与え、
それぞれの地に、境を定められたのです。

(『詩編』74編 16-17節)

5. アリア (アルト)

大いなる力によって
あなたは私たちの境を守ってください、
ここでは平安が輝くのです。
殺戮と戦いの嵐が
いたるところで起ころうとも。
王冠と王笏が震えおののく時も
あなたは救いをもたらしてくださいました。
大いなる力によって!

6. 合唱

どうか、あなたが敵に与えることがありませんように
あなたの鳩の魂を。

(『詩編』74編 19節)

7. 合唱

新たな統治が
あらゆる道において
祝福の冠で飾られますように!
平和、安らぎ、そして繁栄が
絶えずあることでしょう
その新たな統治のもとには。

幸福、救い、そして大いなる勝利が
日々、新たに
あなたを、ヨーゼフ王よ、喜ばせることでしょう。
そしてすべての地、すべての国において
ずっと変わらずにありますように。
幸福、救い、そして大いなる勝利が!

■指揮 辻 秀幸

Ensemble14 指揮者。

幼少よりヴァイオリン・ピアノ・フルート・金管楽器・作曲を学び、東京芸術大学声楽科及び同大学院独唱科修了。

声楽を渡邊高之助、宗教音楽を小林道夫、佐々木正利の各氏に師事。1985年イタリアのミラノを中心にヨーロッパへ音楽遊学。L. グואリーニ女史、F. タリアヴィーニ、H. リングラの各氏に師事。

1986年イタリアのノバラ市国際声楽コンクール入賞。同年ドイツのハイデルベルク、1988・89年にはウィーン楽友協会大ホール、2000年にはカイザースラウテルン、パッサウ他、数都市でベートーヴェン“第9”のソリストを努め、ヨーロッパ各地でコンサートに出演し好評を博す。国内でもドイツ・イタリア・日本歌曲を中心に各地でユニークなり

サイタル活動を展開し、オペラでは古典から現代に至るまで、数多くの作品に出演し、その優れた演技力と歌唱は、新聞・音楽誌上でも度々絶賛された。宗教音楽の演奏家としての活躍は特に目覚ましく、バッハ、ヘンデル、ハイドンの宗教曲、オラトリオの演奏では、ソリスト・エヴァンゲリスト・また指揮者として、その活動は常に注目を集めている。現在指導に当たっているアマチュア合唱団は13団体を数える。

洗足学園音楽大学客員教授、日本合唱指揮者協会副理事長、東京都合唱連盟理事、アンサンブル BWV2001メンバー。共著に「わかつて歌おうーレクイエム発音講座」「フィガロの結婚 発音講座」等がある。

※ 辻 秀幸 公式サイト <http://www.davide-hide.com/>

■管弦楽 Millennium Bach Ensemble (ミレニウム・バッハ・アンサンブル)

2000年4月に田園調布教会で行われた「マタイ受難曲」演奏会において辻秀幸先生の呼びかけにより結成される。各方面で活躍中の若手演奏家からなる器楽団体。第2回演奏会以降、Ensemble14との共演が続いている。

ヴァイオリン I：大西 律子*、鍋谷 里香、本郷 幸子

ヴァイオリン II：磯田 ひろみ、上ノ山 美香

ヴィオラ：高山 愛、渡邊 智生

チェロ：山本 徹

コントラバス：寺田 和正

ファゴット：井上 直哉

オルガン：山本 庸子

オーボエ：岡 北斗、多田 敦美、崎本 絵里菜

リコーダー：菊池 かなえ、西村 いづみ

トランペット：平井 志郎、高丸 智子、奥田 敏雄

ティンパニ：村本 寛太郎

* コンサートミストレス

■声楽 Ensemble14 (アンサンブル・フィアツェン)

辻秀幸先生のもとでJ. S. バッハのカンタータ等を歌うアマチュア合唱団。1998年8月結成。ソリストは団内オーディションにて選出し、プロのオーケストラ(主に現代楽器)と共演する演奏スタイルで、東京周辺にて活動している。

※ Ensemble 14 公式サイト <http://www.ensemble14.org>

E-Mail info@ensemble14.org

指揮者：辻 秀幸

練習ピアニスト：田城 章子

代表：室橋 明美

副代表：武内 崇史、小林 尚弘、柿原 紀子

練習指揮者：木下 剛、小田 奈穂子、室橋 明美

Ensemble 14 出演メンバー

ソプラノ (Sopran)		アルト (Alt)		テノール (Tenor)	バス (Baß)
荒井 舞	高橋 磯美	Jesse Aсталos	竹内 望	笹部 雅人	大内 良太郎
伊藤 泰子	中阪 理津子	上田 暁子	寺崎 淳子	佐藤 容司	木下 剛
大軒 京子	橋元 文子	小田 奈穂子	冨樫 典子	長澤 哲	小林 尚弘
河野 優子	原田 篤子	改田 晶子	中井 杏瞳	中西 隆紀	下平 泰裕
川村 昌子	三上 香子	柿原 紀子	中神 康一	橋元 正美	菅野 松佐登
子井野 真貴子	湊 佳代	片山 薫	山形 可奈子	室橋 義明	武内 崇史
佐藤 かおり	室橋 明美	小林 愛子	頼 甲子		次田 章
菅野 総子		小林 良子			

これまでの演奏 (抜粋) 作曲者: J. S. バッハ

- 1999年 4月 マタイ受難曲 抜粋演奏 (ピアノ伴奏) に、「マタイを歌う会」とともに出演 (日本基督教団奥沢教会)
- 1999年 9月 第1回演奏会 カンタータ 第106番、第150番、第155番 (ルーテル市ヶ谷センター)
- 2000年 4月 マタイ受難曲の全曲演奏に第2コーラスとして出演 (日本基督教団 田園調布教会)
- 2003年 5月 第7回演奏会 ヨハネ受難曲 BWV 245 (津田ホール)
- 2005年 9月 第10回演奏会 マタイ受難曲 BWV 244 (日本大学カザルスホール)
- 2010年 7月 第16回演奏会 ミサ曲口短調 BWV 232 (紀尾井ホール)
- 2012年 7月 第19回演奏会 カンタータ 第3番、第96番、第113番 (川崎市高津市民館大ホール)
- 2013年 2月 第20回演奏会 カンタータ 第21番、第38番、第137番 (浜離宮朝日ホール)
- 2013年 10月 第21回演奏会 カンタータ 第9番、第67番、第115番、第176番 (津田ホール)
- 2014年 6月 第22回演奏会 カンタータ 第94番、第108番、モテット6番、カンタータ 第84番、第102番 (浜離宮朝日ホール)

一覧 (BWVの数字に対応。赤字がこれまでの演奏曲)

1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	13	14	15	16	17	18	19	20
21	22	23	24	25	26	27	28	29	30	31	32	33	34	35	36	37	38	39	40
41	42	43	44	45	46	47	48	49	50	51	52	53	54	55	56	57	58	59	60
61	62	63	64	65	66	67	68	69	70	71	72	73	74	75	76	77	78	79	80
81	82	83	84	85	86	87	88	89	90	91	92	93	94	95	96	97	98	99	100
101	102	103	104	105	106	107	108	109	110	111	112	113	114	115	116	117	118	119	120
121	122	123	124	125	126	127	128	129	130	131	132	133	134	135	136	137	138	139	140
141	142	143	144	145	146	147	148	149	150	151	152	153	154	155	156	157	158	159	160
161	162	163	164	165	166	167	168	169	170	171	172	173	174	175	176	177	178	179	180
181	182	183	184	185	186	187	188	189	190	191	192	193	194	195	196	197	198	199	200
201	202	203	204	205	206	207	208	209	210	211	212	213	214	215	216	217	218	219	220
221	222	223	224	225	226	227	228	229	230	231	232	233	234	235	236	237	238	239	240
241	242	243	244	245	246	247	248	249											

Ensemble14 第23回演奏会プログラム

発行日: 2015年2月8日

発行者: Ensemble14

©無断転載・複製を禁じます。

次回 第24回演奏会のご案内
2015年11月21日(土) 浜離宮朝日ホール
J. S. バッハ 作曲
カンタータ 第64番、第97番、第150番、第177番

Winzler

主催 Ensemble 14
後援 JCDA 日本合唱指揮者協会

Johann Sebastian Bach